

# David Sablan さん インタビュー

2011年 9月

サブラン氏が Vice President を勤める Tan Holdings のオフィスにて




サ : サブラン氏  
松 : 松本ウィリー氏  
小 : 小代有希子  
ゼ : ゼミ生 (青木麻衣、山下昌志、久保田優稀、廣島克哉、遠藤未来、瀬戸菜摘、高木堇、田崎慶史)

### 世界の中の日本

「い」という。

# THE MAN OF SAIPAN

北マリアナ連邦知事の筆頭補佐官であるデービッド・サブラン氏。ナンバツツの實力者である同氏が観光局理事にも就任した。



▲デービッド・サブラン氏

同連邦の知事に次ぐパワを持った同氏は、財政や企画推進の實質的な實力者。英語はもとよ

り日本語もペラペラ。その氏が北マリアナ政府観光局の新任理事選挙で圧倒的な票を集めて当選した。パフォーマンスも豊かで、日本の観光関係者にとっても、氏の就任は大きな力になってくれそうだ。

◆

自然と青い空と青い海、コーラルアイランドサイパンはいま日本人客を中心に人気の観光地になっている。自然との共生がサイパン観光の特長だが、ハワイ追跡型のリゾート形式ではなく、当地に合ったスポーツアイランドづくり、そのためには日本の官民からの投資を切望している。この投資も日本とサイパンの資本が合体して台弁事業を行うことが最も望ましい空と思

つている。(談)

### サイパン

# 今後最も期待の持てるデスティネーション

## グアムを凌ぐかノースポーツアイランド



▲北マリアナ連邦知事デービッド・サブラン氏(前)と観光局長ホテル日航サイパンの代表者ら。サブラン氏は右から二番目。

北マリアナ連邦知事デービッド・サブラン氏が、観光局長に就任した。同氏は、グアムを凌ぐかノースポーツアイランドの発展を期している。

▲観光局長のホテル日航サイパン代表者ら

▲観光局長のホテル日航サイパン代表者ら

### 主要ホテルの特長

豊かな自然と青い空・緑の海に囲まれた南側のリゾートから、ビーチ・プールを備えたスポーツリゾートまで、大きく発展し始めている。

### ホテル日航サイパン

開業して5年、日本型リゾートの魅力を最大限に引き出した。開業して1年、地元観光客が訪れるようになった。リゾートの魅力は、自然と共生すること。また、パフォーマンスも豊かで、日本の観光関係者にとっても、氏の就任は大きな力になってくれそうだ。

サ：(小代の名刺を見ながら) Collage... 大学、大学ですね、はあ。静岡県、三島市、文教町ですか。これは・・・ちょっとどこですか？

小： 三島市は、伊豆です。えっと、富士山の近くです。

サ： はあ、そうですか。(富士山の近くと聞いてピンと来た様子)

小： 温泉があってとてもいいところです。

サ： ええ、ええ、箱根みたいに？ (にっこりと)

小： そうです。箱根から車で 40 分くらいです。とてもいいところなので。

サ： ああ、そうですか。 で、あのお、これは、あの(ゼミ生のことを指差し、正しい日本語を探すようにして)何だろう、students?

ゼ： 大学生です。

サ： 大学生。へえ、若いですね。

ゼ： (笑い)

サ： 一番若いのは何歳ですか？

ゼ： 19 歳。

サ： 13？

ゼ： Nineteen.

サ： Nineteen. ほお、私はもうおじいさんでしょう どうしょもなく(笑)。What can I say, Willie san? ああ、英語は、いかがですか？どうですか、英語は？無理？

ゼ： ちょっと・・・(笑)

サ： ちょっと無理？ そうですか。 あお、通訳はいますからね。 (小代に) You are a teacher. OK.



Well, I just want to.... I don't know the real purpose of this, Willie-san, except that you visited...

We wanna thank you for your visit and we appreciate... because I was born during the Japanese time.

I am now 79 years old. 79歳。で、日本時代で、1932（いっせんきゅうひゃくさんじゅうに）で生まれました。ええ。で、その後で、サイパン公学校入ってね。ええと、私は5年生まで。一番高いのは5年生までですよ。でそのとき、あの、5年生卒業して、で、あの、アメリカが戦争始めたんですよ。はい。あの、何か聞くことありますか？（笑顔で）どうぞ、先生 通訳してくださいね。（笑）

ゼ： 私もこれ（"Once Upon A Time in Garapan: セピア色のガラパン"III, Mariana s Beach Press, n.d., pp.16-20）を読ませていただいて、サブランさん、学校で日本人の先生から学んだっていうふうに書いてあったんですけど、先生の名前が村本先生・・・に習った、勉強を教えてもらったっていう風に書いてあるんですけど。例えば、算術とか日本語以外には、どんなものを習いましたか？

サ： 私は、1年生から5年生までいてね、あのー最初は、カタカナを習います。あの書くのね。で2年生の時はあのお、ひらがなを習っていました。で、さん、あの・・・さんさん・・・あの・・・（注：「3年生」いう単語が出てこないようで、ゼミ生に確認をとって）、3年生でねえ・・・あのーいろいろ簡単な漢字を習いました。それでもう、そろばんも習いました。で、あのー同級の中ですね、私（わし？）は1番でしょ、あの、そろばんだったらね。（にっこりと）で、いつもなにかあの、偉い人が日本から来るとね、学校に来るでしょ、でその時に、そろばんは全部出して、僕がいろいろやるんですよ。ええ、ごわさんでねがいては・・・、って。（満面の笑い）それともまた、読むのね、私も良かったでしょ。僕あのお、同級のなかで2番目。級長。同級は40名いました。はい、で、その時、あのお、いろいろ習いましたね。あのお、午前中はですね、午前中は、あのいろいろ arithmetic と読むことを習って、午後だったら農業。（ゼミ生の「農業？」という意外そうな問いかけに）うん、あのお、学校の裏の方にね・・・学校のあれあったでしょ、その裏のほうに、あの畑があったんですよ。で午後はいつでも毎日、あの、畑行って、いろいろ習うんですよ、あの、野菜科と菜っ葉科と・・・それでもうやってたんでしょう、畑ね。ええ。面白かったよ。（にっこり。不平を言ってるのではないですよ、といった気遣い？）

ゼ： 作った物をみんなで分けて食べたりもしたんですか？

サ： いえ、売ります。ええ。あのー、例えば菜っ葉はね、こう、できたものだったら、それをあの・・・、あれ採って、いろいろ行くんでしょう、あのお、家にね。で、それを売るんですよ、実践で。で、そのお金を集めて先生にあげます。ええ、あの時は一銭も払ってないんですから、学校にね。（注：学費のこと？）で、その形でいろいろ、その、あのお、お金を学校に渡します。少ないですけど。少しだけ。ははは・・・（砂糖キビ栽培は学校でやっていたかという質問に）・・・やらなかったんでしょうね、サトウキビは、あのお、商売ですから、商売のものでやっていたんですから、もう学校で習わなくてもね。サイパンの、あのほとんどサトウキビをやりましたよね、農業でね。あの90%くらい、あの島中に、どこ行ってもサトウキビあったんですよ。ええ。で、戦争中はですね、それだけ食べていたんですよ、僕ら。ええ。 3

週間。 3週間、朝昼晩、サトウキビだけ。けどねえ（歯を指しながら） 丈夫ですよ、歯がね。

ゼ： サトウキビ列車、**train**、が（島を）走っているのはよく見かけていましたか？

サ： 毎日見ました。うーん。 で、あの、島中にやってたね。（と大きく円を描く仕草をして）あのチャランカから、今あの教会があるところ、チャンランカの方にね、あそこから出て、ずっとマッピまで行って、それからあの、サイパンの裏の方、ずっと行ってたんですよ。

ゼ： （路線は）どの位の長さでしたか？ 長かったですか？

サ： あのう、あの・・・**train** の（路線の長さ）ですか？ そうですねえ、あの、島の長さの2倍くらいですね。 そうでしょ。16マイル（注：25.6キロ）くらい。もっとかと思いましたね、ええ。あの、サイパンはね、南からずっと北までは、13マイル。キロというとなんだったかな。（注：約20.8キロ） それから、あの・・・そのお、汽車はね、チャランカから出てずっと、あの、サイパンのずっと北まで行って、それから、あの山の裏の・・・また帰ってくるでしょ。 そうですから、（路線の長さは）13マイル2倍したら、もうほとんど、そんな長さがあったですね。

ゼ： ありがとうございます。

サ： はいはい。

（話し変わって）

サ： あの、学校行ったんですよ。もちろん日本時代に生まれましたから。日本時代というと1914（いっせんきゅうひやくじゅうよん）から、はい、31年くらいですよ。 その時に生まれましたから、あのドイツのことは、全然あれ、わかりません。お父さんはわかっていたんですけど、あの、いろいろね。 ああ・・・ウィリーさん（と松本氏の方を向いて）**bauxite** っていうのは・・・ **bauxite**。（注：ボーキサイトのこと）あのね、ドイツ時代にね、そのセントウ（？）をね、ヤップに送ったんですよ。ええ。ヤップにいろいろ、あの例えば、無線科とね、そんないろいろの学校やってたんで、ヤップで。で、日本時代は、あのパラオに送るんですよ、サイパンからね。 パラオにいろいろ、建築科と機械科とね それでも習ってたんでしょ、あの、パラオで。パラオは・・・南（みなみ）・・・何ていうかな、南洋庁だったでしょ・・・南洋庁一になっていったんでしょね、はあ。

松： パラオの南洋庁が本部っていったら変だけど、それでサイパン市長だっけ？

サ： 市長。はい。

小： 失礼ですが、チャモロ語はお話しになりますか？ 話しますか？

サ： してますよ。だってこっちの人はチャモロンですから。ハハハ（笑） だけどサンパンはですね、2つあるでしょ。 チャモロと・・・チャモロと、あのお日本語で言うとカナカ、の人たち。わっつあ（私は？） あ、あの子（注：ハーフ）でしょ。カナカのあの子。半分半分。はい。で、チャモロ語と、あのお、カナカ語もわかります。で、あのお、中学校行ったとき、あのおガム（注：グアムのこと）に行つて中学校、それ（は）スペイン語、あ、習ってました。ええ。 ですから、もう・・・（笑）

小： グアムは当時は、英語も教えていたんじゃないのですか？

サ： いやあ、そう。 そうなつていったんですけれど。 あ、もちろんそれは、あ、習つたんですけど、あのお、カナカ語と、あ、サイパン語はもちろん、あ、サイパンから習つていたんですよ。親から。

小： はい。言語の天才ですね。

サ： （意味が通じない様子？）

小： You are a genius.



サ： Oh, now you are speaking English...?

小： It seems to me you are a linguistic genius.

サ： Yes.... （と答えた後、一瞬考えて） Not genius! （笑） まあ幼稚園の、アレだけですだからね、レベルだけ。お父さんはですね、あ、・・・ He speaks seven languages. （日本人がすると同じように両手の指をつかって7を表しながら。）

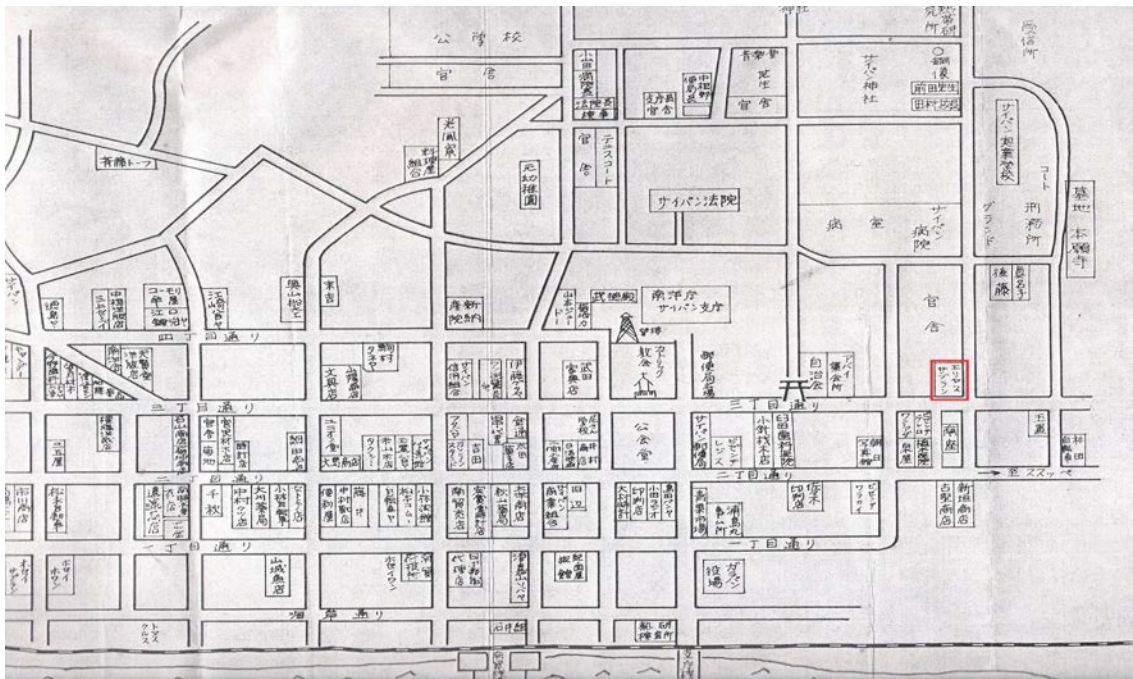
ぜ： ええっ!

サ： はあ。あ、 （壁に飾つてある写真を指差して） あ、Kilili（注：現在北マリアナ諸島連邦代表連邦下院議員に選出されている Congressman Kilili Camacho Sablan のこと）のね、おじいさん、知つてでしょ、（とウィリーさんに） あ、Kilili という人。Kililiのおじいさんが、アメリカ時代から最初の、あ、市長になつていったんですよ、サイパンで。 He was a mayor. で・・・6月・・・ Let me see... 1945年（いつせんきゅうひやくよんじゅうごねん）の初めから、そのおじいさんは亡くなつて、お父さんが take over したんですよ。その mayor... 市長でしょ、mayor. で、お父さんが市長になつていったんですよ、12年間。ええ、アメリカ時代にね。ええ。そのことで、あ、・・・サポートもらつ

ていたんでしょ、あの、カナカのコミュニティからね。

(ゼミ生は、ウィリーさんから頂いた戦前のサイパン地図のコピーを、サブランさんに見せる。)

サ： ちょっと待ってえ。 エリヤス・サブランというところ。 ちょっと待って・・・ 3丁目。 この方面・・・ これだ・・・ここの家。 ええ。 それお父さん。これさ、僕らの家。 こうしましょうね。(地図を見やすいようにひっくり返してくれる) エリヤス・サブラン。 これは南三丁目。 ここですわ。 で今はね・・・(引き続き地図を見ながら)・・・ これは神社。



ウ： 彩帆神社ね。

サ： ええ。で、これが市長庁。で、カトリックの教派の・・・教会は、ここですね。今にある教会も、ここでしょう。 同じところ。 同じ場所。

小： ええと、刑務所(跡)のところからひとつ、ワンブロック下に行ったところですね。

サ： (今回のゼミ研修のフィールドワークではそのあたりを) 歩いて行ったの？

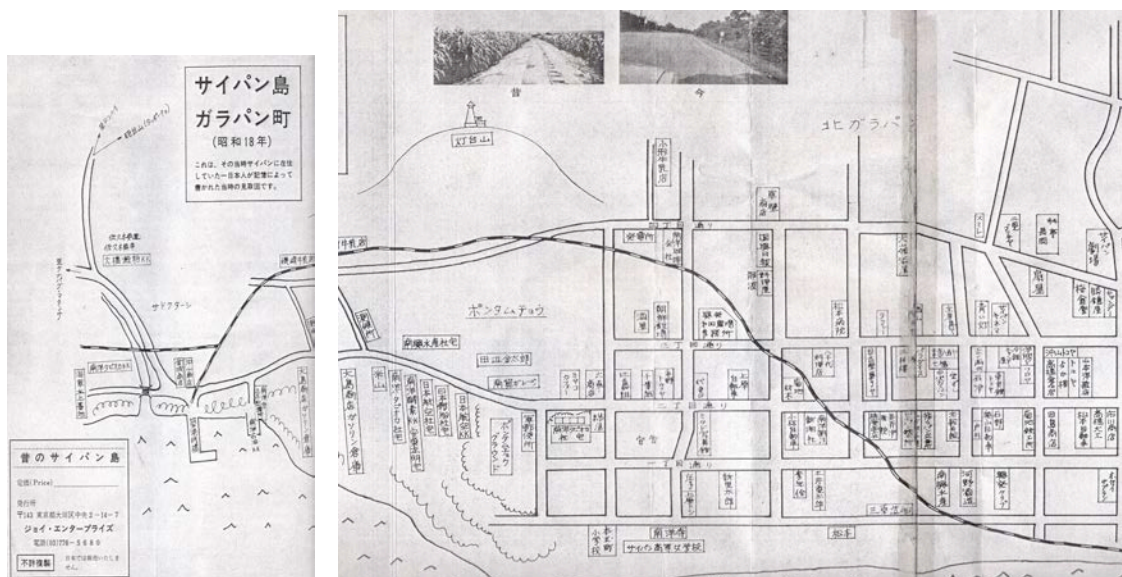
小： はい。日本人がみんな(戦前に)住んでいたあたりってということで、歩きました。

サ： なぜ僕、あの、体、丈夫かというね、あの、日本時代にさ、ああ、公学校、公学校にね、毎朝、

7時・・・7時から7時半まで、生徒は・・・ジャムカ(?)学校行ってね、運動するんでしょう。(ラジオ体操のような仕草をして)たいしょう。たい・・・そう・・・ですね、体操。はい。

小： 昔はどんな風でしたか、サブランさんが子供の頃は。

サ： あのお、あとで習っていったんですけど、サイパン・・・町(まち)は・・・ガラパン町(まち)はですね、あの、スモール東京みたいでしょ。スモール東京。(笑いながら)で、(戦前のサイパン地図を見ながら)道もよく見えるでしょ。南・・・ああ、ここは波止場ですね。波止場どこ、ウィリーさん? これでしょ。こっから・・・こっからは、北ガラパン。こっから南のほうは、南ガラパンですね。で、くだんは終わりでしょ。(注:意味不明)。で、郵便局はこれでしょ。公会堂はここのほうだったね。公会堂。



小： にぎやかだったですか?

サ： そう。あの・・・戦争中はもちろん・・・ね(注:そうではなかった)(笑いながら)けどその前はですね、あの、経済は良かったですよ、サイパンでね。うん・・・で、全部仲良くあってね。日本と沖縄人と、あの、チャモロとカナカの人たちは、全部あの・・・仲良かったんでしょ。ね。ああ・・・で、戦争・・・ああ戦争、そう始まる前に、ちょっと変になったんですね。ええ。もう軍がいたんですから。(苦笑い)で、軍が、その責任になってますよ、サイパンの、あれはですね、いろいろ。ですから、変わっていったんでしょう、あの、戦争中に。Yeah... けど、その前は苦手ですね。(やや渋い表情になって横を向く。)

小： 縁日ってわかりますか? Summer festival... あの、お寺とか神社のところで、夜になるとフェス

テバルをやるんですけれど。 サイパンでもやっていましたか、そういうのは。

サ： やってましたよ。うんー。 本当にあの、面白かったでしょう、日本時代はですね。 けど、なぜかというと、(そういう)人たちも、いろいろ、あの、経済のあれはね、農業もいろいろやって、もう・・・ 買うことは全然ありませんよね。 あと例えば、米もあつたんですよ、サイパンに。米と、あの いろいろ野菜とね、全部、畑でやっていたんでしょ、その人たちはね。買わなくてもいいんです。そりゃ、魚だけは、もうもちろん、ね、あの、海へ行って、あの、やるんですから。 それ以上は、経済は良かったんですよ、サイパンはね。今はですね、サイパン人は全部、怠けになってんですよ。怠け。 *Very lazy.*

(笑い) 知ってますか、怠けっていうの。

(ここで話題を変えて、手元に置いてあつた写真を取って) ウィリーさん、すいません、これちょっと変ですけれども、いいですか。 あのねえ、これはですね、サイパンで、あの、亡くなった海軍でしょ。で、これは、アメリカの軍が あの戦争中に、これは、あの見つけてね。この前、あの、もらったんですよ、アメリカから。ええ。で、これが、あれ、何ていうの、*postcard*。 それどうぞ、あげますよ先生に。誰かは、わからないですけどね。 で、2人とも・・・(デスク上の電話がなって、ここで話しはいったん中断。)

ゼ： (ゼミで読んだ資料のコピーを見ながら) (サブランさんは)アメリカ軍のメッセンジャーとして、あのお、初めて働いた(チャモロ人の)一人であると書いてあつたんですが、初めてのメッセンジャーということは、英語もあまりわからない状態で・・・[注: *Bruce Petty, ed., Saipan: Oral Histories of the Pacific War* [McFarland, 2002] pp.40-45 に、サブランさんの戦争時代回想記が掲載されている。]

サ： 全然わからなかった!

ゼ： ・・・やったと思うのですが、何か大変なことや辛いことはありませんでしたか?

サ： いやあ、あの、無理だったんですね、初めは。で、あのお、お父さんがね、あの *Chief of Police* と言うのは・・・警察官・・・

ウ： …の一番上でしょ。

サ： はいはい。市長になる前にね、警察官になってたんですよ。 すぐ・・・あの、山から出たときね。

ウ： 山ってジャングルね。(注: 戦争中米軍がサイパン上陸した際、彼らは日本人とともにジャングルに隠れたので、山から出たというのは、米軍に投降したことを意味する?)

サ： ええ。 で、その時にね、その時に、お父さんが、あの・・・ *supply office* に、あの、*warrant* したんだよ、僕の *service* を。 *Yeah... He told the supply officer... to take me for free ... to work as a*



messenger for free ... so I can learn how to speak English. その時はですね As a messenger, I had to pick up the mail ... 郵便局からの、その手紙を持ってね、それからいろいろな depart(ment) にあったんですよね、その書類か何か、あの、向こう持ってって下さいと・・・そんなこと やってたんでしょ、僕は。12 歳頃。 I was twelve years old. They told me how to ... excuse me, but... they told me how to, say, mop, broom, coffee (とジェスチャーを交えながら説明) コーヒーは毎朝作るんですよね。 あのねえ、軍は酔っぱらってさあ、で、もう、頭ちょっと、くるくるパーでしょ。(手で頭をくるくるするジェスチャーをしながら笑う。 ゼミ生たちもつられて笑う。) で、その時、あの、コーヒーを、あの、やっていたんですよね。 で・・・そんなことをやっていたんですよね、 あの・・・ as a messenger. で、2年やっつて、お父さん、「あの、デービッドさん、あなた、グアム行って、あの、学校に行つて」って・・・そのことで、あの、1947年 (いっせんきゅうひやくよんじゅうななねん) にグアム行って、あの、小学校行ったんですよ、僕はね。その時はですね、サイパン人は全部、あの、仲が全然悪かったんですよ、グアムの人たちと。けども、しょうがなくね、あの学校行って、8年生で入って、それからあの、英語も習って。それから、あの、arithmetic、計算だったらね、専門だったんですよ、僕は。けど英語はあんまりよくなかった。(笑) 英語も、あの、science もダメだった。だめし(?)。 けどもう頑張つて、あの卒業したんですよ、48年にね。でサイパンに帰ってきて、あの、アメリカ軍の、あの、子供たちのね、学校があったんでしょう、今あの、フェイエスタ・リゾート (ホテル) にあったとこ。ここに、あの、学校あつて。でお父さんが、あの時は市長になったんです。だから、あの、軍にね、僕の子供、向こう・・・あの・・・学校に行けるかと。 で、その permission をもらいまして。 で、2年・・・2年間ぐらいサイパンに、あの、英語をいろいろ習つて、その後でまた、あの、グアムに帰ってきて、あの、中学校で卒業しました。もうあの、閉まったんですから、この・・・あの・・・中学校は。(注：閉校してしまった、ということ?) で、グアム行って、その・・・グアム行った後で、あの、1952年 (いっせんきゅうひやくごじゅうにねん) に卒業して、それからもう、お金がなかったんですから、その時ね。で、アメリカにいたかった (注：行きたかった) ですが、お金がないから、もう、ずっとサイパン・・・グアムに止まって (注：とどまって) あの job もらつて働いて。 で、今のトヨタの、あの、販売をやっていた会社で、あの、働いていました。

ウ： AK?

サ： AK. Atkins Kroll. (注：会社名) で、1965年 (いっせんきゅうひやくろくじゅうごねん)、僕は、サイパン帰ってきて、あの、AK を始めました。

ウ： トヨタのディーラーですね。

サ： で私は、あの、東京行って・・・あの company のあれね、形ね・・・ あの、東京行って、あの、トヨタの販売を、あの、ネゴ (negotiation) しました。・・・僕のへんな日本語でさ、はっはっはっ (大笑い)

ウ： トヨタのディーラー（をサイパンに）持ってきたのは、サブランさんなの？

サ： そう。

ウ： うわあ・・・すごい・・・

サ： 南洋じゅう。 ええ。 あの、グアムと。 その時はね、あの、サイパン、あ、グアムの知事のね、父がディーラーなってたんですよ。けどねえ、借金が減らなかったから。 で、いろいろネゴして、トヨタと。で、あの、いろいろ その credit をチェックしてさ、あの、会社の。で、そのことで、サイパンももらって、グアムももらって、あの南洋群島の、あの dealer distributorship ももらった。

ウ： うわおお・・・！

サ： で、そのことでね、あの、トヨタさん、ここ来た。（と、自分のオフィスを指して）エイジ・トヨタ  
（注： 豊田英二）

ゼ： ええっ!!! 社長が・・・

サ： 社長ですか。 受けて・・・ あの、写真があるんですよ。 後で、あげますから。（笑）

ゼ： （笑いながら、驚きと尊敬のまじったため息をもらす。）

サ： あの、いろいろの、あの・・・マイクロ始めたとき。（注：マイクロ・ビーチでの事業を始めたとき）ええ。でも毎回ねえ、日本行くとね、あの、トヨタの人たちは、ああサイパンも、あの日本（注：のビジネスの調子）はちょっと良くなったねえって、良くなったって言ってたんですよ。（大笑）面白かった・・・あの、時々行くとね。（笑）それから・・・その後で、また日本の、いろいろ、あの、偉い人たちも会って。で僕は、あの、インターコンチネンタルのホテルも、また始めました。今、ダイイチ（注：ガラパンのホテル）になってる。その前にね、僕のホテルが、あったんでしょ、そこね。で、京王プラザの人たちと、あの、日本交通公社と、僕と、あの、インターコンチネンタルのホテルのグループと、一緒にしてホテルを作った。210室のホテル。（立ち上がって）これが・・・（壁に飾ってある写真をはずして、デスクに持ってきて、それを見せながら）これが、あの grand opening. 1976年（いっせんきゅうひゃくななじゅうろくねん）。

ウ： インターコンチネンタル。

サ： ええ。 Right. (写真を指差しながら) この人はね、おじさん。 あの、京王プラザの副社長。おじさん。で、これは、インターコンチネンタルの社長。 ニューヨークから来てる。で、この人は、あの、何ていうかなあ、Commonwealth になる前にね、アメリカの Representative にはなっていたんですよ、カランという人。 で、この・・・これ僕。 このはげ頭。(笑) で、この人はですね、マサブ・・・ああ、副会長ですよ、JTB の。 ああ、カネマツ。 カネマツさん。 で、僕はね、その partnership 始まってね、ね、僕は、社長になってったんですよ、その partnership の。

ウ： Partnership は、JTB, 日本交通公社と、はとバス・・・東京にある・・・ はとバスが、一緒に作った会社で...

(話変わって)

サ： ガラパン町はですね、もう・・・日本らしいでしょうな・・・日本時代は。いろいろ、あのお、あのお・・・ってか、club もあっていて・・・ええ、面白かったんだ・・・あのお、映画もあって・・・ movie theater... We have several movie theaters ... Yes. We have "Hokkaido," where we ...

小： どんな映画をやっていましたか。 サブランさんが好きだったのは、どんな映画でしたか。

サ： いやあ・・・あれ、サムライ。(笑顔で剣を振るジェスチャーをする) ははは・・・サムライの映画いろいろ。 面白かったでしょう。その、サムライの映画は、よくやってたですよ、サイパンで。

小： 歌は覚えていますか？ 日本の歌。

サ： 日本の歌？ ああ・・・。 けどですねえ、大人の歌だけ、わかる・・・あの、覚えてましたよ。見ながら、聞いてたですから。 例えば、ああ・・・、一番日本のいい歌はですね、(歌を披露してくれる)

♪真白き富士の一、気高さを一、心が強い一、たね (注：盾)として一♪

いろいろ、まあまあ、忘れてましたね。(再び歌う)

♪御国につくす一、おみならは一(注：女達は)、輝く御世の山ざくら一♪。

あああ、もう後は忘れたよ、ははは。(笑)

(ゼミ生一同拍手) (注：これは、「愛国の花」という 1937 年 10 月に発表された軍歌。作曲者は古関裕而。)

サ： それ、カブラン(?)に歌った・・・歌っていた・・・いろいろ あったんでしょうね。それは学生ですから、わたし、歌えないことで・・・(追い払うようなジェスチャーをしながら、楽しそうに笑う)

ははは・・・

(話が変わって)

サ： ああ、魚もあったんですよ。魚ご飯。それから畑でやってたもの、あのお、ジャガイモ・・・で、あの・・・ Sweet potato. いも。Yeah. じゃがいも、なかったね、あの時は、いもだけ。ああ。それから、あの、ナシカ(?)と・・・あの・・・ beans ... soy beans? ... それ掘っていた。トマト。で・・・学校で、あの、いろいろ、その、ああ、野菜を、やってたんですから、もう、畑でもやっていました。はい。ですから、もう、日本料理はですね、もう普通でしょう、僕らの方は。蕎麦屋もあってさ、その時は。(しばらく考えて)・・・で、今でもですね、日本の restaurant で行くだ、僕は。2週間は1回。それから寿司もね。

ウ： 何が好きなんですか。

サ： ええ・・・寿司? だから・・・刺身と、あん中に入ってる(と巻いた芯に何かを入れる仕草)

ウ： 鉄火巻き?

サ： 鉄火巻き。それから、そばも、いろいろ やってた。

小： 子どもの頃に一番好きだった(日本の)お菓子って、どんなお菓子がありました?

サ： お菓子ですか。んーんー・・・(と、口を閉じて、じっくり考えて)、難しいですね、あははは・・・その時は、お金あんまりなかったんですから。もう、店に、あの、お菓子買おうと思っても、買うものがないんですよ。ああ・・・家族は、もう貧乏ですから、その時は。(笑顔で)

小： 日本の遊びで、していた遊びってありますか?

サ： どんな遊び、ですか? はあ・・・そうねえ・・・(と両手をひざの上に置いて、難しい顔で考え始める)遊ぶというものは・・・たぶんないですね。あの、What do you ... you write something and you hopscotch. What do you call that? 将棋ですか? いや・・・You go... (コピー用紙を取って、円を続けて書き始めたところ、ゼミ生が一斉に気がつく。)

ゼ： あっ、あっ! 石けり!

サ： So you jump ... and ... jump... and jump(と、描いた円を次から次へと指でたどりながら)

ゼ： ああ、ケンケン。ケンケン。

サ： ケンケン？（とゼミ生に確認）ははは、有名だったですよ、日本時代は。

ウ：（ゼミ生に）今でもやるの？」

ゼ： 小さい子は・・・やる子はやっています。タイヤを飛んだり。

ゼ： すごろくとかは、されていませんか？

サ： すごろく・・・ 知りません。（笑顔で）

ゼ： あ、すみません。

サ： 知りません。 ははは。 すごろくって？（聞き取り不可）ですか？（笑顔で）

ゼ： あの、ダイスを・・・あの、さいころをまわして・・・

サ： No, やらなかった。 野球は、よくやりましたよ。 野球。うん、有名ですね、日本は。 野球、良くやりました。 とっても・・・ 学校でですね、あの、終わる前に、運動会があったんですよ、1日中はね。 でその時、良く練習して。 例えば、あの、マラソンかと、いろいろ、やってたですよ。

小： ちょっと変な質問ですけど、サブランさんが子供の頃は、アメリカはどういう国だと思っていましたか？

サ：（一転して難しい真剣な表情になり）それ・・・難しい question ですね。ええ。 I... あの・・・英語と言うとね、（ウィリーさんに向かって）説明してくださいね、ウィリーさん。 It is very difficult for us, as a twelve year old boy, to imagine how the American look like. All I know is the American... In my imagination, the Americans are 8 feet tall ...（ジェスチャーを交えて笑う） 8 feet tall and the very white shirt, white hat, and white socks, white shoes and they cannot get dirty. Yeah. そんなかたちが、あったんでしょうね、頭にね。ええ。 けど・・・

ウ： イメージがあるのね。

サ： そんな、イメージですね。 2メートル以上ですね。 もっとでしょ。

ウ： 2メートル40センチです。

サ： うーん。 8 feet tall... (笑い) で、この人たちがね、(立ち上がって、壁に飾られた写真を指差しながら) あの、戦争の後にねえ・・・戦争中に、これは助けられたんですよ、この3名。これ僕(向かって右から2番目を指差して)。 あの・・・陸海軍。 ええ。 で、この人はね (向かって右端の人物を指差して)、これだけ (手で身長の高さを表しながら)。 小さい。ですからねえ、その・・・ その・・・ 初めてアメリカ人見たことはね、その人たちでしょう。ええ。で、すぐ変わったんですね、頭の(中?)かける(?)イメージがね。 もう、8 feet じゃなくて、4 feet 9 (注: 145センチ) だからねえ。それから、あの、重さはね、90 ポンド(注: 約40キロ) だけ。 その人は。今は、ちょっと太くなってっただんですけど。 最初会った時、90 ポンドだけでしたね、あの人は。 で、あの・・・何ていうかな、信用とれるようにね、あの、畑から出たとき・・・ あの・・・ What do you call "cave"? .....

ゼ： 洞窟。

サ： ああ。 From the cave... すぐ出たときね、あの・・・そのかたちを見て、それから、あの、To gain our confidence, he gave me the gun to carry... down the hill. (ジェスチャー混じりに)。 ええ。 鉄砲は、that big. (ジェスチャー混じりに)。 So I have to carry... I have to drag... the gun. But this is one way for them to gain confidence, our confidence. But ah... ah... I'll just make it very brief. When every morning... every ... 英語でいいですか?... Every morning, 3 or 4 people will go down the hill to cut sugarcane for our meals ... ね、毎朝、あの・・・before the sunrise. There one day they saw Japanese soldiers... one day when they come down into the hill, so they hid and then... the sun come up already and then ... あの・・・there were lots of ships, American ships, shooting. When they saw these people crawling on the mountain, on the hill, they started shooting. And they send these three people to go and check. Yeah. And so, when we... when these people came up they could not see the 入り口。(洞窟に入って降りていくようなジェスチャーをしながら) Cannot see. So they keep checking. And a baby cry. A baby cry inside the cave and they say "Oh, that's where they are hiding." Also outside, because we are Catholic, we had a cross outside to protect us, and so they saw the cross, they saw the entrance, and then they are inside. In a very, very, broken Japanese, 「心配しないで、出てこい。」 あの、その(立ち上がって壁の写真を指差して) この人が言ってました。

ゼ： 日系人・・・? (と互いに言い合う)

サ： で、そりゃあ、はじめて。で、2回目だね。2回、その、あの、また話す前にね、もう手榴弾があったんだよ、あの手の中にね (栓を抜いて投げるジェスチャーをしながら)。 He was going to through it inside. There were about thirty of us inside the cave. And so... my father jumped out and said "I surrender." (両手を挙げるジェスチャーをして) 降参。 And they say "Oh, you surrender? You speak English?" My father say "Yes, I speak English." "Oh, we're looking for you. Your name Elias Sablan?" "Yes." "Oh, then we are looking for you." And this is 3週間後、上陸あった。 So because

they needed somebody that would speak English to translate for the Army... the Japanese Army, yeah.  
So they were happy to see my father... and the family.

(話が違って、さらに別の写真を見ながら)

小： 左がサブランさんですか？で、右がお父さんですね。この写真は何ですか？この2つ目の写真は。

サ： その次の写真は、あの、お父さんが市長になってった時。 Swearing-in ceremony. ええ。 1945  
(いっせんきゅうひゃくよんじゅうご)。 はい。

小： 45年にもう市長さんですか。

サ： になりました。 もう12年間ね。 1945から、あの、57まで、お父さん市長になったんですよね。  
で、そのもっと下の方(注:の写真)は、それは、あの・・・ウィリーさん、How do you say United Nations?

ゼ： 国連。

サ： 国連で あの、He was making report on the development of Micronesia. That's my father at the  
United Nations.

ウ： 国連レポート？ すごいなあ・・・

小： この写真は、何ですか？

サ： あの・・・その色男は、僕でしょうね、右のほう。(ゼミ生が緊張が解けたように一斉に笑う) そんな  
時がね、あったでしょうな。(ゼミ生とともに笑う) そういう・・・僕は・・・25歳だったんでしょ、  
あの時は。サイバン帰って来た時はね。

小： これはジョージ・ブッシュのサイン入りの・・・

サ： ああ、その・・・前の・・・アメリカ大統領。

小： 「75歳の誕生日おめでとう」って、ブッシュ大統領からお手紙が来てますね。

ゼ： ええっ!!! (大歓声)

ウ： 3時になったので、あと何か質問があったら。 サブランさんも忙しいと思うからね。

サ： いやいやいや、大丈夫ですよ。 ウィリーさん、 I just ...Can you just express my sincere appreciation? I really am honored that these young people from Japan would make themselves available to talk to me. If it were not the Japanese, I would not be where I am today. Yes. 体は丈夫ですよ、79歳でも。もう、あの、小さい時から、もういろいろ運動して、そのことで、あの、I think I have a very good health for a 79 years old. I can run still. ね、いいよ、マラソンでもね。(走るジェスチャーをして笑う) ですから・・・ OK.. で、いつまでいるんですか、サイパンは。

(話が変わって)

サ： トヨタの、あのトヨタのセールス、事務所があったでしょう、近いところにね。そう、いつも靖国・・・あの・・・いい歌あったでしょう、あの・・・靖国神社のね。(満面の笑顔) Ah... I forgot the... I forgot the wording... it goes... 姉さんは良く歌ってたよ、よく日本時代にね。

♪こんな立派なお通り (おとおり) に・・・何か、何か・・・♪ (と、鳥居のかたちをジェスチャーで表す) (注：どうも『九段の母』の「空をつくよな大鳥居、こんな立派なおやしるに、神とまつられ もったいなさよ、母は泣けます うれしさに」を思い出そうとしている様子)。

(そういう有名な歌が) 靖国神社にね (あったんですよ)。有名でしょ、靖国神社というところは。はい。Yeah, いつも、日本に行くと I go to Yasukuni Jinja. Yeah. (思い出すような穏やかな笑顔) そう。

ゼ： そこでは戦車は見たことないですか？ (注：2009年度のサイパン研修で、ゼミ4期生はサイパン戦を戦った元日本兵、下田四郎氏に会って、サイパンに放置されていた戦車2台を日本に持ち帰った苦労話しを聞いた。うち1台は靖国神社に納められたため、サブラン氏に質問した。)

サ： ああ、ないですね。もう、しばらくでしょう、日本・・・行ったのは。もう12年前。その・・・しもと・・・下田さんが持ってたの・・・いいですねえ。今度、今度・・・あの、間違いなく写真で持って帰ってきましょう。

ゼ： ありがとうございます。

サ： はい、どうも。(と会釈)

(話が変わって)

ゼ： 農業以外に (日本統治時代の学校で) 何か学んだことってありますか？

サ： 強くしてください。



ウ： 大きな声で言ってください。

ゼ： 公学校で、日本語と、そろばんと、農業以外に、学んだことって他にありますか。

サ： （注：まだ良く聞き取れない様子で、ウィリー氏のほうを見る。）

ウ： 学校で、そろばん、農業、でその他に、何か学んだことはあるかって、聞いてます。

サ： If we learned something else? そうですね・・・ あの・・・ We learned a little bit about Japan's history. Yeah. ああ・・・あれは何という・・・ああ・・・ 大御神（おおみかみ）？ We learned about it out of book. （本をめくるジェスチャーをしながら笑う）。 The ...the beginning of Japan... Yeah... それは、いろいろ、あの、何というんですか、日本の・・・日本のあれですか・・・

ウ： 歴史？

サ： The century... the beginning of Japan, the history ... それはいろいろ習ってました。（注：長いインタビューで疲れが出てきたようで、涙目をハンカチで拭う。） history って、何というの？

小： 歴史。

サ： あっ、歴史。うん。 あの museum 行ったことある？（注：CNMI Museum のこと）

ウ： 昨日行ってきた。はい。メモリアル・パークも行ったし、ミュージアムも行って。

サ： あああ、忙しいですね。

ウ： で、今日は、朝、地獄谷。

サ： ほおお。

ウ： で、あと極楽谷。

サ： あああ。

（話し変わって）

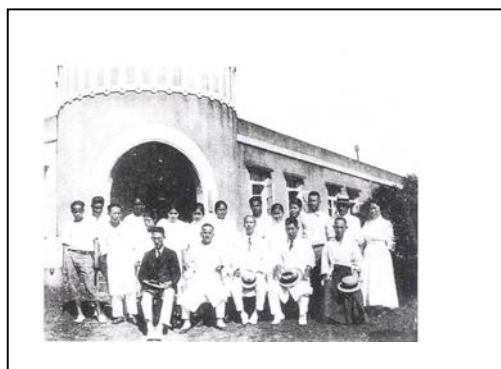


ゼ： あの、サイパン病院について、お聞きしたいんですけども。

サ： はい。見たでしょう、そのサイパン病院はね。ええ。

ゼ： （日本統治時代には）日本人の方と、チャモロの人々も、ここを使えたんですか？

サ： はい。いますよ。（右の写真を示しながら）  
で、これは、僕の親戚。



ゼ： （驚きで、一斉に歓声を上げる）

サ： あのお、この人はね ... He was an ambulance driver.  
この人。フェリッペね。

“セピア色のサイパン III, Marianas Beach Press, n.d. p.19 より

ウ： 救急車のドライバーをしていたって。

サ： そう。この人。で、家族はちゃんというよ、サイパンでね、今。で・・・（写真を指差して）フェリッペ。これはトレス先生。

小： 鳥居先生？

サ： ええ。トレス。トレス。T-O-R-R-E-S .

小： ああ、はい、チャモロの人ですね。

サ： はい、チャモロです。ええ。（写真を指差して）トレス先生。これは フェリッペ・セイマン。セイマン。うーん、名前はあるまいわかりませんが、この人たちは、ほとんど、あの・・・チャモロです。

ウ： ああ、現地の人。

サ： ええ。

ウ： これ（このユニフォームは）nurse ですね。

サ： ええ、この人たちは、ほとんど、日本・・・あの チャモロですね。ここと、ここと、この人で

す。 ここは看護婦、3人とも。

ウ： うん。

サ： あのお・・・ (ずいぶん長く考えたあと)・・・ もう (私は) おじいさんですから、あんまり覚えていないんですね。 すいません。(笑)

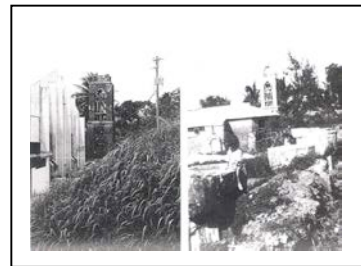
ゼ： (日本統治時代には) 最新の医療技術を日本人が伝えたって学んだんですけど・・・ (それはそれで良いことかもしれないですが) (右下の”Once Upon A Time in Garapan: セピア色のガラパン III “に掲載されている写真を見せながら) 昔は、あの、サイパンにもラッテストーンがあったって書いてあるんですよ。 でも日本側によってすべて砕かれて、道路や、建設材料として使われたって書いてあって・・・

サ： 建築材料・・・？ I remember the words. That's construction material. はい。

ゼ： で、その、建築材料の中に・・・あの・・・この病院を建てるのにも、そのラッテストーンを砕いたものを使ったのか・・・

サ： Could you explain a little bit, Willie san?

ウ： 何て説明したらいいんだろうね。



サ： もう1回、もう1回言ってください、すいません。

小： According to the story that she read before we came here, the Japanese administrators sometimes destroyed the Latte Stones, the sacred object for the Chamorro people, and they used the shattered materials for constructing various buildings, and she wondered if this hospital, which was supposed to be the most advanced in the entire South Sea, also used the Latte Stone as part of...

サ： No, no, they did not use. Yeah, there were no Latte Stone at all by the hospital. なかったんでしょうね。 ただ病院だけ。病院のビルだけです。 No Latte Stone. Yeah. Latte Stone becomes still a mystery today. We don't know exactly what the Chamorro use. We think that it was built for pillars.

小： That's right. That's what we saw at the museum.

サ： Yes. We think that is, but nobody really knows because they cut it from the ground ね、so that becomes still a mystery today. How they do it, I don't know, but they used it for pillar.

ゼ： ありがとうございます。

サ： (すわったまま、体を曲げて会釈。 ややお疲れの様子。)

ゼ： ごめんなさい、最後に。 グアムに行って、えと、アメリカの学校に行って・・・ (質問をうまくまとめられず焦りながら) すみません、失礼します。えっと、まあ戦争が終わって、グアムに行って、アメリカの学校に入って、まあ英語をちょっと習ったっていう風に聞いたんですけども、英語以外にも(グアムで) 習ったことはありますか？

サ： 英語・・・ 「えらい」？(ウィリーさんに意味を聞きなおす)

ウ： 「英語の他に。」

サ： あっ。 ああ・・・そうですね、science, algebra, geometry... yeah, I learned all of that. And ah... science... of course...English language was ... it was a grammatical English, the rule of office speaking English. But ... on top of that, of course, the Problem of American Democracy. That is one of the topic I took. Also I learned about American government. あの・・・アメリカの政府の、あの、story ですね、history ... を習っていました。

ゼ： その・・・地理・・・えと、geography は、アメリカの本土の地理ですか？ あ、ごめんなさい、えと、何て言えいいかな、えと・・・geo... geography は、ええと、グアムの geography なのか・・・えと・・・

サ： 「グアムの・・・？」(聞きづらそうに耳に手をあてて)

ゼ： ええと・・・地理は・・・

小： When you took the course on geography, she wonders if you learned about the geography of Guam or the South Pacific, or the geography of the Mainland USA.

サ： Ah... America. America only. Later I learned ... I learned about Nan'yo. But I know only Nan'yo because we learned from the Japanese. 5年生。Yeah. 5年生のときに、あの、いろいろ、その、あの、南洋の information もらいましたね。勉強しました。日本時代のね、学校で。

小： Were you excited when you learned ... of these things about American democracy? Was that fun

to study all these things?

サ： Well, ah... well, it is something new to learn. And ... I think because I was born during the Japanese time, I made lots of comparison... you know... And actually ... ah... I'm a little bit, you know you might not... you might not believe it, but I'm a little bit partial to Japanese because the Japanese brought me up and taught me how to live. That's different because the American government always "give, give, give, give"; the Japanese government, they teach you how to live, and you go in... you go in there. That's the difference. And even today... even today... ah...I... do not agree fully with all these food stamp. 知ってるでしょ、フードスタンプ。Free food from the government, I don't believe it. Yeah, I believe in standing on my own foot, to earn my living, and work for my living.

小： And the Japanese education ....

サ： Yes.

小： ... focused on that.

サ： Yes.



小： ... and put an emphasis on that.

天皇皇后サイパン訪問の際：左端がサブランさん

サ： Yes.... (しばらく沈黙) どうも違ってますよね、あの・・・culture. (しばらく沈黙。)

小： What future do you see for Saipan? Saipan 10 years from now... 20 years from now?

サ： Yeah. Let me say this. Comparatively, ah... Saipan and the rest of Micronesia relies economically very heavily on Japan.

小： Even today?

サ： Even today. Yeah. (非常に厳しい表情で) In 1955, when I was in Guam, I was a member of this Guam Chamber of Commerce Board of Director. 1955, before I was working for AK. I told the Board of Director and some of the Guam Chamber of Commerce that, whether we like it or not, the economy of this area must rely on Japan ... because America don't ever know who we are. Even today, they don't know where Saipan is. When you go to Japan, everybody knows where Saipan is. And we are

still getting very good economic support from Japan. I was the chairman of the Visitors Authority for 20 years. And at that time we received very strong support, economic support, from Japan. If you compare the number of visitors from different place, Japan constitute 65% to 70% of the number of people that visit Saipan. Even today. (左手の人差し指でデスクを叩く。笑顔は消えて非常に厳しい表情に。) Yes. That's why we say we rely very heavily on the economic future of this island to Japan. (話し終えて、堅い表情でゼミ生の顔を見回したあと、沈黙。しばらくして、緊張が解けたように椅子にもたれかかったところ、我にかえったように「ははは・・・」と笑顔に戻る。)

小： The younger generation here (meeting you today) has to do something to pay back for the....

ウ： (ゼミ生に) (サイパンに) 残ってよ。(笑)

ゼ： (苦笑)

サ： Yes, Yes. As a matter of fact... as a matter of fact, when I was... In my last year of chairmanship of Mariana's Visitors Authority, I went to Japan with the Governor Babauta, and I met with Japan Airlines, and I told the managing director... I said... I said, Mr. Director, I know that we are part America. But Japan has the moral obligation to help up, today. (左手の人差し指でデスクを何度も軽く叩く) And the Director, sort of ... (両手で胸を抱え込んで悲しむジェスチャー) ... "I'm sorry" and didn't say anything anymore. (ちょっと残念そうな笑顔を浮かべるが、すぐ真剣な表情に戻り) So help us. お手伝い、お手伝いしてください。今の経済は、全然だめですから。今、今頃。貧乏でしょう。不景気、サイパンの人たちは・・・(やや怒りの表情も浮かぶ)

小： サブランさんから日本の大学生にメッセージをどうぞ。

サ： Thank you. Is it OK in English?

小： Maybe Japanese?

サ： だめですか。すいません、私の日本語は全然ダメですけど、できるだけ頑張ります。頑張って、いろいろ、あの、メッセージあげます。今頃のね、サイパンの経済は、ほんとに良くなっていません。サイパンの人たちは・・・人たちは、あの・・・日本に、今、戻したいんですよ、その経済のお手伝いをですね。ですから、できるだけ、あの大学生さんの方から、いろいろ政府にね、サイパンを助けてくださいと、そのメッセージをもらえれば、本当にありがたいですよ。どうも、ありがとうございました。